高森町成人式

2017. 1. 3

たかもり

発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田　高森町公民館
発行人
大　洞　利　雄
☎35－9416
印刷所
龍共印刷株式会社

年頭所感

高森町公民館長　大洞利雄

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様方におかれましては元日の日の出のように明るく輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

公民館活動のあり方が問われている近年ではございますが、皆様方のご支援・ご協力により、昨年は、本館・支館・分館共に様々な活動を実施することができました。

地域の方々のまとまりや交流を一層深めるために、心身の健康の保持増進のために各種事業を推進してくださった各支館・分館。

各分館の自慢が満載の公民館報「たかもり」600号特集はじめ、発行に力を注いでくださった本館編集部。

公民館文化祭等において、文化面の充実発展に寄与してくださった本館教養部。

地域や地域間のスポーツ振興のために大会を企画・運営してくださった本館体育部。

各自の能力や技能を発揮し、過去の映像の収集・整理、長期間保存できる媒体への変換作業に力を注いでくださった本館視聴覚部。

その自主的な活動は、多くの方々に感動と今後への示唆を与えてくださいました。

本年は、何事にも意欲的に活動しております公民館主事と共に、公民館活動の原点でもあります「まなぶ」・「むすぶ」・「つどう」の役割を見つめ直し、「公民館を考える」・「地域の良さを学ぶ」講座等、新たな事業の工夫改善に努めてまいります。また、まとめとして思い出に残る町民運動会（詳しくは1月10日発行お知らせ版に掲載）の企画・運営にも力を注いでまいる所存です。

最後となりましたが、今までの努力が報われる時期ということにもつながると言われております西年の本年、日々、頑張っておられる皆様方にとりまして多くの成果が得られる素晴らしい年となりますことを心よりお祈りいたしまして年頭の挨拶といたします。

成人式を終えて

ヘッドライト

成人式を迎え、多くの仲間と約5年ぶりに再会しました。この間に既に就職している人、故郷を遠く離れ夢に向かって勉強をしている人など、しっかりと自分の進路を見据えている友達が多いことを知りました。私も保育士として地域に貢献していきたいと考えているので、改めて気持ちが引き締まる思いでした。こうして無事に成人式を迎えられたのも、両親をはじめ支えてくださっている方々のおかげと、感謝の気持ちでいっぱいです。

北原（きたはら）　葵（あおい）（吉田）

原（はら）　沙央理（さおり）

（上市田）

先日成人式が行われました。地元を出ている人や就職している人もいて、久しぶりに会う同級生はとても大人びていましたが、懐かしさを感じました。私は実行委員だったので、企画・運営を他の実行委員と共に行ってきました。司会進行では緊張してしまい焦っていましたが、無事終えることができました。みんなそれぞれ懐かしい友人や恩師と楽しく話をしていたり、抽選会も盛り上がることができて、実行委員として式に関われてよかったと思います。また中学校に移動してからのクラス会では、元クラスメイトの様子を知ることができたり、担任の先生が持ってきてくださった懐かしい映像を観ることもできたりしました。中学校は新しくなり私達が過ごした校舎ではありませんが、一緒に勉強していた頃を思い出し懐かしい気持ちになりました。4月からは社会人となります。気持ちを新たに頑張っていきたいと思います。

吉森（よしもり）　愛海（あいみ）

（牛牧）

1月3日に成人式が行われました。中学時代の友人に会うのは卒業以来の人が多く、この日に会えることをとても楽しみにしていました。久しぶりに会う友人とは、近況や中学時代の話などで盛り上がり、とても楽しいものになりました。各クラスに分かれてのクラス会では、互いの近況報告をしました。大学に進み勉学に励んでいる人、就職をして働いている人など、それぞれの場所で頑張っている様子が聞け、嬉しく思うとともに、私も頑張らないといけないという刺激をもらうことができました。

私も4月からは小さい頃からの夢であった保育士として働きます。社会の一員として、一生懸命に働きたいと思います。そして、今まで支えてくれた家族や友人、周りの方々に感謝をして過ごしていきたいと思います。

三面鏡

元日、裏山から昇った眩しいほどの朝日に手を合わす。わりとのんびりした正月だったこともあってじっくりと新聞に目を通し、多くを知った▼子どもや若者の生きづらさを報じる記事の何と多いことか。家に帰れない子・帰りたくない子が多いとか、子どもに食事や居場所を提供する（せざるを得ない）「子ども食堂」が多く設けられたとか、「うるさくなる」など音の問題で、保育園の新設計画が行き詰まっている等々である▼また、若者が陥っている「ネット依存」の問題も特集されていた。もはや、小学生にも忍び寄ってきていると聞く▼そんな中、日本を「子どもの楽園」と紹介した駐日公使が居たことも知った。子どもがいかに大事にされていたかを、外国人が手紙や本に多くの記録を残していたという。明治初期の頃のようだ▼さて、今の日本はどうなのか。「しあわせとは情報のないことだ。何もない砂場で遊ぶ子どもの表情の、何と輝いていることか」といった記事も目にした。この言に何故か新鮮な感覚を覚える。今では、そんな時代に戻ることはないとわかってはいても、だ▼今年も例年のように、「大人になったらなりたいもの」のアンケート結果が載った。男の子は1位「サッカー選手」2位「学者・博士」、女の子は1位「食べ物屋さん」2位「保育園・幼稚園の先生」だという▼明るい未来を夢みて羽ばたこうとする子どもたちを、しっかり支えられる大人社会でありたい。先ずは、家庭と地域から。

特集　どんど焼き

どんど焼きの由来

正月の松飾りやしめ縄、書き初めなどを持ち寄り、田んぼに積み上げて燃やす小正月の行事「どんど焼き」。全国各地に伝わる「どんど焼き」にはどんな由来があるのでしょうか？

「どんど焼き」は、正月十五日、平安時代の宮中で、青竹を束ねて立て、毬杖三本を結び、その上に扇子や短冊などを添え、陰陽師が謡い囃しながらこれを焼いた「左義長（三毬杖）」とよばれる火祭りの行事が起源だといわれています。それが民間に伝わり、正月に歳神様を迎えるために飾る門松やしめ縄を燃やして、お迎えした神様を天に送るための火祭り「どんど焼き」となりました。その火は身体を祓い清め、青竹の爆ぜる音が魔を払うとされ、皆で集まり無病息災を願ってお餅や繭玉の餅を焼いて食べる伝統行事となったのです。

呼び名は各地で異なり、東海地方から西日本では「左義長」、東日本では「才（歳）の神焼き」などともいいます。長野県では、「どんど焼き」、「どんどん焼き」、「おんべ」、「三九郎」、「ほんやり」などが多いようです。どんど焼きの「どんど」や「どんどん」は、火が燃えるのを「尊や尊」と囃し立てたことから、その囃し言葉が訛ったという説と、どんどん燃える様子からその名がついたとの説があります。「おんべ」は、御神木を軸にし、松飾りなどを集めて円すい形に積み上げたものを「おんべ」と称したり、長い竹のことを「おんべ」と呼んだりします。習字の神様を「おんべ」という地方もあり、諸説さまざまなようです。松本地方に伝わる「三九郎」は、道祖神の祭りを統括する神主「福間三九郎大夫（だいふは神職の称）」の名前にちなむといわれているようです。

当地方では「ほんやり」と呼ばれていますが、その由来は不明です。ご存知の方がおられましたら公民館までぜひご一報ください。

近年、正月の松飾りが簡略化され、どんど焼きの櫓がまともに作れない地区も出てきているようですが、何百年と受け継がれてきた日本の伝統行事を、その由来も含めて後世に伝えていきたいものです。

将来に残したい（大切な）伝統行事　新田地区のほんやり

松の内も終わった1月8日の早朝、新田地区のほんやりが行われました。

前日の午前中、地区内の小中学生が、育成会の方や保護者の手伝いをいただき、ほんやり作りを行いました。今は、昔（30年前位）と違い、子ども達が各戸を回り、門松を引いて集めてくるのではなく、大人と一緒に軽トラックで集めています。昔は寒い中、遠くから上県道を引いてきたのが懐かしく感じました。

男子は集められた門松を素材ごとに分別したり、竹の伐り出し、女子はほんやりの頭に飾る番傘の飾り付けをしました。作業は順調に進み、いよいよ、ほんやり本体を作ります。御神木の周りを竹、松の順に縄で締めながらくるんでいきます。準備開始から2時間半位で立派なほんやりが完成しました。

ほんやり当日は酉年の小学生が点火し、勢いよく燃え上がり、風もなかったため頂点の幣束、傘まで火が上がりました。おき火になると、大勢の地区の方々が、無病息災を願い、持参した餅を焼きました。

昔は、「ほーほう、ほんやりほーほぅ」と呼びかけながら集まったものです、やり方は変化しても、将来残すべき大切な伝統行事です。

ほんやり作り　吉田南地区

1月7日（土）朝9時前、吉田東公園グラウンドに、小学生・中学生とPTA役員、地区の協力者が集まってきた。

吉田南地区子ども会育成会会長の挨拶の後、小学生31名とPTA役員は3班に分かれて、地区内の門松集めに出掛けていった。「寒かったけど、いろんな形や大きさの門松があって楽しかった」「超走ったから寒くなかった」「いろいろな家の人と話せてよかった」「ダルマが大小あって面白かった」と楽しく門松集めが出来た様だった。

中学生7名とPTA役員と有志協力者はほんやり作りをした。まず集まった門松からプラスチックや金物の分別をし、原田さんの指導を受けながら、脚立などを使い2時間程度かけて大きく見事なほんやりが完成した。「分別作業は大変だったが、ほんやりの構造が知られて良かった」「組立の過程を見たり飾り付けが楽しかった」と中学生、「7年位前から作る側で参加しているが、しっかり覚えて後世に伝えていきたい」と有志の男性から頼もしい意見も聞けた。

どんど焼き　下市田二区

1月7日、「健康センターあさぎり」横の広場で小中学生の参加を得て準備が進められた。

下市田区の山から伐採した御神木を芯にして、御射山社、萩山神社で払った枝や竹を縄で巻き付けた。松飾りやダルマで装飾され、高さ3メートルほどの円錐形に積み上げられた。

8日の早朝6時、自治会長挨拶に続き、中学三年生の5人が新年の抱負を述べた後、手にした松明で点火した。持ち寄った餅を炭火でこんがり焼いて、今年一年の無病息災を願った。

1月8日（日）、まだ薄暗い朝6時前ほんやりの周りに地区住民が集まってきた。地区長の挨拶の後、酉年の小学生8名により点火され、炎が天に向かって一気に燃え上がった。字が上手くなる様にと書き初めを炊き上げたり、今年一年風邪をひかず健康で過ごせる様にとお餅を焼いてその場で食べたり、家族分を持ち帰る住民もいた。「地域の行事はこれからも参加したいし、伝統行事も永く続いてほしい」という意見が多く聞かれた。

論説　防人たちのゆく末

年の瀬に全国で火災が相次いだ。広範囲の火災や残火処理には、消防署員だけではとても手が足りない。そんな時に頼りになるのが消防団だが、今、団員の減少という問題に直面している。

要因としてこの辺りで前々から言われているのが、悪いイメージによる拒否反応だ。「酒ばかり飲んで」や「家族を放ったらかしに」など団員の家族からのものもあれば、「無理に（酒を）飲まされる」の様な対象世代からの懸念もある。

こういったイメージも、世間の目を気にしてか、最近では意識の共有など内部の努力により、徐々にではあるが無茶な酒の飲み方が改善されつつあるようだ。

次に挙がるのは、勤務形態の変化であろうか。出動や訓練より勤務を優先させようとする雇用主側の不寛容さ、有事に間に合わないたが出動しなかった（昼間は二人以上必要）ということがあるので、課題が残る。

前者に関連して「消防団活動協力事業所制度」というものがあるが、従業員に団員が一定数いると優遇税制となるのが主で、団員の板挟みのジレンマ自体の解決にはならないだろう。後者に色々と書いたが、最大の壁は少子化である。身も蓋もないが、これが好転しなければ、いくらイメージアップをしようがOBを駆り出そうが先細りなのだ。あとは対象年齢を広くし、分母を大きくするぐらいか。

対象世代は、今まさに現役の働き手だ。彼らへの負担が、さすがに重すぎる気がするのだ。これからは、我々住民も一層の防火意識を持ち、彼らの負担を極力減らせなければ、消防団組織の破綻も遠い未来ではなくなってくる。

「消防協力員」という、地元勤務のOBに出動してもらう制度があるが、人数が少ないため、支度は出来ても出動しなかった（昼間は二人以上必要）ということがあるので、課題が残る。

公民館主事交代

前任　上沼　徹

公民館主事前任の上沼徹です。主事交代により一言お礼を申し上げます。

在任中は、地域で公民館に携わる方々、元気で明るく公民館活動を行う多くのグループの方々をはじめ、本当に多くの町民の皆さん、お世話になりました。公民館という性質上からか、毎日いろんな方と出会い、新しい事を知り、新鮮さのある中で歴史ある公民館活動に取り組んでまいりました。戦後の郷土再建のために始まり、現在まで続く公民館という存在は、人々の心の中では、必要であるものとして認識されていると感じています。住民主体の地域に根ざした公民館活動の展開は、いつ起こり得るとも分らない災害時においても、自分自身と地域の安全を守ること等に繋がるものと思います。大変お世話様になりました。

後任　清水　衆

平成28年10月の異動により教育委員会事務局社会教育係長となりました清水衆（しみずしゅう）と申します。

教育委員会は初めてのこととなります。関係の皆様にはご迷惑をお掛けすると思いますが、精一杯頑張りますので、何卒よろしくお願い致します。

ある会議にて出席者の方より「公民館は地域の潤滑油だなあ」というお話しがありました。地域の中の人と人のつながりや交流を緩やかに、そして滑らかに生みだすのが公民館。この公民館活動があることで、各地区の活動が元気に行われているという、経験や実践の中から来る含蓄ある深い一言と感じました。今回、そのような重責を担う部署に配属されることは、大きなプレッシャーであるとともに、やりがいもある部署だと感じています。

地域の皆さんが活動していく中で、「こういう方は知らないか？」「こういう事例を聞きたい！」などのご相談があれば、いつでも声をかけて下さい。一緒に企画して、一緒に実現しましょう！

今後ともよろしくお願い致します！

『柿の里ひろば』長谷川幸洋先生　講演会

「ビートたけしのTVタックル」「そこまで言って委員会NP」などでご活躍中の長谷川幸洋先生をお招きし、ご講演頂きます。

「激動する世界～日本の針路を考える～」

■日　時　平成29年３月18日（土）13：30～15：00
■場　所　高森町福祉センター２階　大ホール
■テーマ　「激動する世界～日本の針路を考える～」

今回のアメリカ大統領選挙で、トランプ政権が誕生することとなりました。これらの世界の動きから、今後の世界や日本経済はどのようになるのか？そして、私たちの身の回りも、少子高齢化・人口減少時代を迎えるに加え、経済活動を含めた生活がどのように変わっていくのか？

そして、私たちはどのような考え方を持って生きていくべきなのか？長谷川先生に「そこまで言って」もらいます！

「本学神社を知り、訪れる」

公民館講座を実施　平成28年12月17日

12月17日の土曜日に、「本学神社を知り、訪れる」公民館講座を開催しました。この講座は、地域にある良いところを再発見することを目的としており、初めて行ったものです。山吹上地区や公民館山吹上分館と協力して企画しました。

参加者は、地元である山吹上地区の方々を中心に、飯田市からも参加がありました。講座の題字には、参加した小学生が戦国武将を書いてくれました。会場の雰囲気が和みます。

始めに、時の駅館長の松上清志さんから、本学神社についての説明を聞きました。江戸時代に、仏教が伝来する前の日本古来の考え方を研究する国学が盛んになったことや、山吹藩を中心に、熱心に学習活動を行ったことがきっかけとなり、神社をたてることになったことを聞きました。神社には、本居宣長や平田篤胤等の４人の学者がまつられています。

本学神社の説明を聞いた後は、神社まで歩いて移動しました。参道は、クヌギの葉っぱに埋め尽くされています。どんぐりや松ぼっくりもたくさん落ちていました。今では少なくなった、里山の風景が残っています。参道は、傾斜が厳しい上り坂になっていて、ちょっとした登山のようです。

参加者は息を切らしながらも、歩いて登り切りました。神社に到着したうれしさと、先人たちの想いを感じて、達成感に満ちています。江戸時代に活躍した松尾多勢子が、この地を訪れた際に詠んだ碑についての説明を聞きました。

本学神社には学問を研究した学者がまつられている ことから、地元では受験や勉強の祈願に訪れる学生もいます。多くの絵馬が飾られていました。神社関係者の方の配慮もあり、普段は見ることができない本殿の中に入ることができました。

参加者からは、神社ができた経緯を知ることができ、実際に歩いて訪れてみて、地域のことを改めて感じることができたとの感想がありました。飯田市の参加者からは、先人の熱心な活動によって建てられた本学神社を、今でも大切に守っている地域があることは素晴らしいとの感想が聞かれました。

公民館ではこれからも、地域にある良いところを知るための講座を企画していきます。

なお、今回、昭和60年代に地元の山吹上の皆さんで制作した映像を知ることができました。下記ＱＲコードより町公式ＹｏｕＴｕｂｅよりご覧になることができます。

町民運動会のあり方について

公民館の大きな事業の一つとして長く歴史のある町民運動会でしたが、生活の変化や高齢化などの原因で人が集まりにくく開催が難しくなっているとの課題がありました。公民館では平成20年、平成27年とアンケートによる現状把握を行い、平成28年1月から平成28年9月まで、支館長分館長主事会、公民館運営審議会、定例教育委員会をのべ６回開催しました。

各会議においての検討結果を踏まえ、「平成29年度に町制施行60周年事業として町全体のまとめの運動会を開催し、以降、町民運動会は中止する」との方針を議会総務民生委員会、区長会で報告しました。

今後、公民館としては、既に支館・分館単位で開催されている地区別運動会を広く推進し、スポーツを通じての人・地域の交流を図るように努めていきます。

また、来年度開催する町制施行60周年記念町民運動会は、町民の皆様はもちろんのこと、スポーツ推進委員・体育部員の皆さんと一緒に実施してまいります。多くの皆様のご理解とご協力をお願い致します。

中央公民館の紹介

中央公民館は、町内の団体や、町民の皆さんの活動を支えるためにあります。打ち合わせや催し、サークル活動等に使うことができます。

1、施設の紹介

使い勝手を良くするため、平成28年６月より、クツのまま建物に入れるようになりました。

1）1階

①ロビー　予約の必要がなく、気軽に打ち合わせができる場所です。譲り合ってお使いください。数種類の新聞が置かれています。
②掲示スペース　主に、町内で行われるイベントや団体の紹介・文化・スポーツ関係のポスターやパンフレットが掲示されています。
③町図書館　町図書館にない本は、他の図書館から取り寄せて借りることもできます。起業（仕事を興す）したい方向けの情報が充実しています。

2）2階

①大会議室　112畳の畳敷きの部屋です。座って会議をするための机が50台・座布団、黒板があります。ステージとピアノ、映像を見るためのスクリーンがあります。
②第２会議室　24畳の畳敷きの部屋です。大会議室と共用の机・座布団があります。床の間があり、和室としての使い方ができます。
③第３会議室　机６台、イス12台、ホワイトボードがあります。
④学習室Ａ　机８台、イス16台、黒板があります。仕切りを外せば、学習室Ｂと繋げて、机16台、イス32台の規模で使うことができます。
⑤学習室Ｂ　机８台、イス16台、黒板があります。映像を見るためのスクリーンがあります。
⑥視聴覚室　簡単な台の付いたイスが50台あります（使う際に並べます）。ピアノと、映像を見るための小型スクリーンがあります。机が並んでいない部屋なので、サークル活動に向いています。
※中央公民館は、原則として、飲食禁止です。

2、申し込み方法

公民館事務局（教育委員会事務局）までお申し込みください。無料で使用できる場合と、有料になる場合があります。有料の場合の料金は、「３、使用料」をご覧ください。

次の場合には、使用することができません。福祉センター等の施設をご利用ください。
①営利（企業活動）的な活動
②特定の政党や候補者に関係する活動
③宗教等に関係する活動

公民館ロビー掲示板

3、使用料

現在、料金のあり方を検討しています。有料使用の場合の、現状の料金表は次のとおりです。

①使用料

No.	場所	半日	1日	夜間
1	大会議室	1,500円	3,000円	2,000円
2	その他の部屋	600円	1,000円	600円

②冷暖房費

No.	場所	半日	1日	夜間
1	大会議室	2,000円	4,000円	2,000円
2	その他の部屋	1,000円	2,000円	1,000円

4、ポスター、パンフレットの掲示について

公民館登録団体、町民の皆さんの活動等（２、①～③に該当しない等の制約があります）のポスターやパンフレットを掲示することができます。詳しくは公民館事務局までお問い合わせください。

まちのとしょかん

小学校1年生に本を贈る サードブックプレゼント

子どもの成長のお祝いと、本との出会いや、本に親しむことを応援する「ブックスタート事業」。町からは生後７か月児、保育園の年少児、小学校１年生の３回本を贈っています。今年も各小学校で贈呈式が行われました。

今回贈られた本は、昨年の12月の懇談会時期に親子で見本やカタログから選んでいただきました。

贈呈には町から光沢教育長（図書館長）、そして町民の皆さんの代表として、読み聞かせボランティア「ぐりとぐら」の皆さんが子どもたちに本を手渡してくださいました。受け取った子どもたちの喜びに満ちた笑顔が印象的です。

親子で楽しむ読書のきっかけに
事業の調査結果から

抱っこのお膝の中で、肌のぬくもりを感じながら語りかけてもらう、読み聞かせ。それは、人への信頼感を育てる大切な時間です。この時間を体験した人の回想によると、先々思春期の不安定な心を和らげる効果もあるといいます。

文字を読め、理解できるようになったからもう充分ということでなく、子どもが「自分で読むからもういいよ」というまでは、親子の読み聞かせの時間を、定期的にとってほしいものです。

昨年、南北小学校２年生の保護者を対象に行ったブックスタート追跡調査によれば、９割弱の家庭で１歳までに読み聞かせを始めています。７か月健診でお渡しする絵本がきっかけになっているといえるでしょう。

そして約半数の方々が読み聞かせが役立つのは「親子で楽しい時間が過ごせるから」と回答しています。

宮下正美氏の直筆ノート、著書等をご寄贈いただきました

「山をゆく歌」など著作集復刻に参考資料を提供してくださったご親族より、正美氏晩年の直筆ノートや椅子、著作の寄贈を受けました。

昨年12月26日、孫の穂高さんと、その小学生になる子どもさんの陽人君、彩音さんが来町し、熊谷町長より感謝状が贈られました。（上）

資料は地域学習に活かせるよう検討していきます。

一筆入魂 書初めコーナー

年の始めの抱負や心情を、来館の方々に太筆ペンで書いていただきました。２月中館内に展示しています。